気になる情報

■10月1日

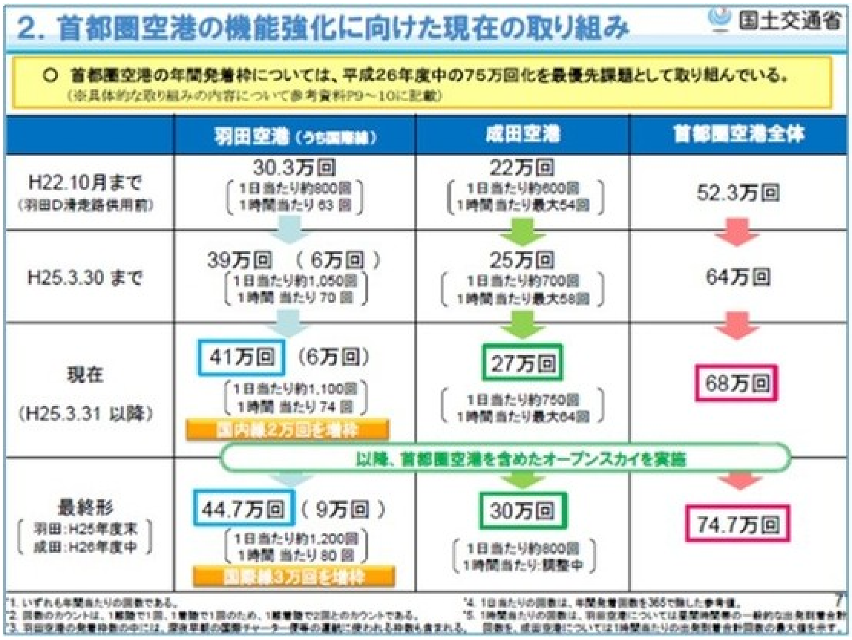
成田空港、首都圏空港機能強化に向け、専任検討チームを設置

成田国際空港会社（NAA）の石指雅啓取締役は9 月27 日の記者会見で、国交省が首都圏空港の機能強化へ向けて検討を開始したことに対応して、同社内に10 月1 日付で「成田国際空港のさらなる機能強化に向けた検討チーム」を設置すると明らかにした。チームは18 名体制で構成される。

今後は、国交省が10 月以降に技術検討小委員会を設置、年度内をメドに容量拡大に向けた様々な技術的な選択肢を国と歩調を合わせ、地域との連携を図りながら検討を行う。

年間発着30 万回の実現を来年度に控えた成田空港では、これまでポスト30 万回のビジョンが打ち出されたことはない。国交省による首都圏空港の容量拡大や機能強化へ向けた方針を受けて、具体的に動き出すことになりそうだ。

*出典：国交省



2. 首都圏空港の機能強化に向けた現在の取り組み　国土交通省

○ 首都圏空港の年間発着枠については、平成26年度中の75万回化を最優先課題として取り組んでいる。
（※具体的な取り組みの内容について参考資料P9～10に記載）

	羽田空港（うち国際線）	成田空港	首都圏空港全体
H22.10月まで（羽田D滑走路供用前）	30.3万回（1日当たり約800回、1時間当たり 63 回）	22万回（1日当たり約600回、1時間当たり最大54回）	52.3万回
H25.3.30 まで	39万回（6万回）（1日当たり約1,050回、1時間 当たり 70 回）	25万回（1日当たり約700回、1時間当たり最大58回）	64万回
現在（H25.3.31 以降）	41万回（6万回）（1日当たり約1,100回、1時間 当たり 74 回）国内線2万回を増枠	27万回（1日当たり約750回、1時間当たり最大64回）	68万回
最終形（羽田：H25年度末、成田：H26年度中）	44.7万回（9万回）（1日当たり約1,200回、1時間 当たり 80 回）国際線3万回を増枠	30万回（1日当たり約800回、1時間当たり：調整中）	74.7万回

以降、首都圏空港を含めたオープンスカイを実施

*1. いずれも年間当たりの回数である。
*2. 回数のカウントは、1離陸で1回、1着陸で1回のため、1離着陸で2回とのカウントである。
*3. 羽田空港の発着枠数の中には、深夜早朝の国際チャーター便等の運航に使われる枠数も含まれる。
*4. 1日当たりの回数は、年間発着回数を365で除した参考値。
*5. 1時間当たりの回数は、羽田空港については昼間時間帯の一般的な出発到着合計回数を、成田空港については1時間当たりの出発到着合計回数の最大値を示す。
7

（日刊航空）9/30
http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm (-> http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm)

エアアジア・ジャパン（LCC）、9月、平均搭乗率81%

エアアジア・ジャパンの石井知祥社長は9 月30 日、9 月の平均搭乗率が81%に達するとの見込みを明らかにした。8月は全体で81%を記録、成田発着便は平均88%だったという。

日刊航空によると、高搭乗率を達成したことに対し石井社長は、「提携解消後、短い時間で社員が努力したことと利用

していただいたお客様のおかげ。このことは、新生バニラ・エア就航に向けて、成功への自信と確信につながっている」と述べた。

（日刊航空）10/1
http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm (-> http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm)

スターフライヤー、8月、旅客利用実績、国内線利用率77.1％、国際線65.4％

スターフライヤーは9月27日、8 月の旅客利用実績を発表した。これによると、国内線3 路線合計の搭乗者数は15 万1,589 人で前年比55.1％増加した（供給は37.7％増）。利用率は77.1％と、前年同月と比べて8.7 ポイント上昇した。3 路線とも搭乗率が向上、特に北九州線は9.8 ポイント上昇するなど好調だった。

一方、国際線の北九州—釜山線は搭乗者数は1 万2,001 人で前年比33.3％増加。利用率は65.4％と前年同期よりも11.4％上昇した。

1．利用実績

国内線	提供座席数（席）		旅客数（人）		利用率（%）	
		前年比(%)		前年比（%)		前年比（[illegible]）
北九州—羽田線	90,852	103.2	68,428	118.6	75.3	9.8
福岡—羽田線	92,184	202.3	71,797	220.3	77.9	6.4
羽田—関空線	13,686	147.9	11,364	152.7	83.0	2.5
全路線合計	196,722	137.7	151,589	155.1	77.1	8.7

国際線	提供座席数（席）		旅客数（人）		利用率（%）	
		前年比（%)		前年比（%)		前年比（[illegible]）
北九州-釜山線	18,360	110.2	12,001	133.3	65.4	11.4

※ 利用率は、有償旅客数／提供座席数で算出しております。

（日刊航空）10/1
http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1001-03.pdf (-> http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1001-03.pdf)
（スターフライヤー　プレスリリース）9/27
http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130927029065.pdf (-> http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130927029065.pdf)

タイのアジアンエア、2014年、成田・関西・札幌、（ -> ）プログラムチャーター便で就航

（日刊航空によると）
タイの新規航空会社「ASIAN AIR」（アジアンエア）の日本地区における就航準備業務を委任されたパシフィックワールドは9 月30 日、アジアンエアが関係当局の認可取得を前提に、日本へのチャーター便による就航を表明したと発表した。

2014 年2 月よりバンコクのドンムアン空港から成田線（週5 便）、同年内に関西線（週2～3 便）と札幌線（同）をプログラムチャーターで運航する計画という。アジアンエアは2011 年にタイで会社設立・登記され、現在はタイ航空当局に運航事業許可の申請を行っている。

（日刊航空）10/1
http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1001-03.pdf (-> http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1001-03.pdf)

バニラ・エア（LCC）、成田―新千歳、沖縄、台北、ソウル就航を発表

エアアジア・ジャパンは30日午後、12月20日に運航し始める新ブランド「バニラ・エア」の就航先と運賃を発表した。成田拠点はレジャー、観光路線に特化するとし、就航先は成田を発着拠点に定め、沖縄、札幌、台北、ソウルの国内外4都市に段階的に就航する。

12月20日からは那覇と台北（桃園）の2都市へ就航。その後、1月29日から札幌、3月1日からソウル（仁川）と、機材の増機に合わせて拡充。

　那覇線は1日4往復（就航時は1日1往復）、札幌線は1日3往復、台北線は1日2往復（同1日1往復）、ソウル線は1日4往復（同1日2往復）で、それぞれ運航する。

一方、運賃はシンプルバニラとコミコミバニラの2種類から選択でき、シンプルバニラでは片道、札幌までは5500円から、沖縄は7500円から、ソウルは8000円から、台北までは1万円からに設定した。予約開始は11月1日12時から。販売は同社のウェブサイト、予約センター、また旅行会社のパッケージツアー。

運航機材はエアバスA320型機で、全機ANAHDからリース導入する。当初2機で運航を開始し、14年3月末に5機、15年3月末に8機、15年9月末までに10機体制を目指す。

Aviationwireによると、今後の路線展開に関しては、片道4時間以内の短距離国際線や、8時間以内の中距離国際線を中心に構築する計画。グアムやサイパンへの就航を視野に、双発機であるA320でエンジンが1基停止した際に洋上を飛行するためのETOPS取得など、足場固めを進めていく。

また、日経によると、同会見で石井知祥社長は、「2015年には（最終損益を）黒字にする」との目標を示し、「できるだけ早い段階で累積損失を一掃し、株主とANAホールディングスに公表していきたい」とも強調したという。

◆運賃

バニラエアらしい【Simple】で【Excellent】な運賃体系に基づき、手頃で納得感のある運賃設定を目指しています。

路線	コミコミバニラ（片道）	シンプルバニラ（片道）
東京（成田）＝台北（桃園）	12,500 円～	10,000 円～
東京（成田）＝ソウル（仁川）	10,500 円～	8,000 円～
東京（成田）＝沖縄（那覇）	10,000 円～	7,500 円～
東京（成田）＝札幌（新千歳）	8,000 円～	5,500 円～

（日経）9/30

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL300LH_Q3A930C1000000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL300LH_Q3A930C1000000/)

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL300M7_Q3A930C1000000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL300M7_Q3A930C1000000/)

（Aviationwire）9/30

http://www.aviationwire.jp/archives/26588 (-> http://www.aviationwire.jp/archives/26588)

（日刊航空）10/1

http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm (-> http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm)

（バニラ・エアプレスリリース）9/30

http://www.vanilla-air.com/press/20130930-1.pdf (-> http://www.vanilla-air.com/press/20130930-1.pdf)

バニラ・エア（LCC）、機体デザインと新制服を発表

エアアジア・ジャパンは30日、12月20日からバニラ・エアとして運航にあたって機体デザインと新ユニフォームのデザインを発表した。

機体は太陽をイメージさせるイエローをメインに、空と海をイメージさせるブルーを差し入れたデザインを採用。また、軽

やかに花開いたようなロゴマークを展開することで、旅の高揚感を演出している。

制服は機体デザインと調和を図り、鮮やかなブルーを基調にポイントカラーとしてイエローを使用。し、「清楚さ」「シンプルさ」を打ち出している。

（バニラ・エア　プレスリリース）9/30
http://www.vanilla-air.com/press/20130930-2.pdf (-> http://www.vanilla-air.com/press/20130930-2.pdf)
（マイナビ）9/30
http://news.mynavi.jp/news/2013/09/30/149/ (-> http://news.mynavi.jp/news/2013/09/30/149/)

バニラ・エア（LCC）、客室乗務員を60名募集

バニラ・エアは30日、客室乗務員の募集を発表した。採用予定人数は60名程度で、2014年1月に入社予定。雇用形態は契約社員で1年を経過後、本人希望・適性・勤務実績などを踏まえ、正社員への登用が可能。応募に際して、成田国際空港へ1時間以内で通える場所に居住、転居できることを条件にあげている。

（flyteam）9/30
http://flyteam.jp/news/article/26964 (-> http://flyteam.jp/news/article/26964)
（バニラ・エアHP）
https://job.axol.jp/13/c/airasia/entry/shokushu/53 (-> https://job.axol.jp/13/c/airasia/entry/shokushu/53)

FDA、小牧—丘珠、小型ジェットでチャーター便を計画

フジドリームエアラインズは29日までに、11月16日に名古屋・小牧空港と丘珠空港（札幌市東区）を小型ジェット旅客機で往復するチャーター便を運航する方針を決め、関係機関と最終調整に入った。丘珠空港に旅客を乗せたジェット機が就航するのは、1956年の民間機乗り入れ開始以来初めて。北海道新聞が報じた。

チャーター便は札幌の経済人らでつくる丘珠研究会が企画し、FDAの小型ジェット旅客機ERJ170（76席）を使用。札幌の旅行会社がチャーター便を組み込んだパックツアーを販売する。ツアーは道内発で、行きは新千歳発便を使って帰りにチャーター便を利用するか、行きだけチャーター便を利用する2通りの日程とし、伊勢神宮などへの旅行やゴルフを楽しむなどの内容になる見通し。

なお、FDAは今年7月に丘珠空港へ同型機を使ったテスト飛行を実施し札幌市は騒音問題の調査など行っている。

（北海道新聞）9/30
http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/494927.html (-> http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/494927.html)

ジェットスター・ジャパン（LCC）、7機の水平尾翼駆動装置点検漏れ、30日は18便欠航

ジェットスター・ジャパンが、保有するエアバスA320型機7機の一部の点検をしていなかったことが30日、国土交通省への取材で分かった。同社は点検のため同日の18便の運航を見合わせ、約2400人に影響。1日以降も欠航便が出る可能性があるという。

国交省の定期検査で、10カ月ごとに行う必要がある水平尾翼を動かす駆動装置部分の目視点検を、行っていなかったことが判明した。
同社によると、点検方法を指示する社内文書を作る際、国交省からの指示を一部記載し忘れたという。

（時事ドットコム）9/30
http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013093000750 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013093000750)

青森県、青森空港、民間委託を検討

青森県は来年度にも、青森空港の運営を民間委託するかどうか判断する方向で検討に入った。青森空港は慢性的な赤字経営が続いており、赤字幅を圧縮するのが狙いだ。民営化による経営合理化策や民間事業者が参入する可能性を精査し、方向性をまとめる考えだ。

現在、青森空港の国内線と国際線を合わせた定期便の乗降客数は、1999年度の166万761人をピークに減少傾向をたどり、2012年度は82万7753人と半減した。

収支状況も厳しく、11年度は除雪関連経費（約6億6500万円）など支出額は約15億8500万円に上った。これに対し、着陸料（約2億5700万円）など収入は約4億7100万円。残る約11億1400万円は一般財源で賄った。12年度も一般財源から約7億7000万円を持ち出した。

青森空港を民間委託する際に課題となるのが15年度の北海道新幹線開業（新青森―新函館）に伴う乗降客数の減少と、他の空港に比べて突出して高い除雪関連経費だ。

県は12年度、民間事業者に空港の運営を委託した場合の収支見通しを5パターンで試算した報告書をまとめた。今後、需要予測や除雪関連経費の削減策などを改めて検討したうえで、慎重に判断する意向だ。

（読売新聞）10/1
http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20130930-OYT8T01474.htm (-> http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20130930-OYT8T01474.htm)

エアアジア（LCC）、インド航空局よりNOCを取得

（レスポンスによると）
エアアジアはNOC（Non Objection Certificate：異議なし証明書）を航空省から獲得したと、ミント紙が伝えている。
エアアジアCEOのフェルナンデス氏はTwitterにて、「われわれAir Asia Indiaが航空省からNOCを獲得することができるか、ヒヤヒヤしていた。今回の承認に非常に興奮している。」とツイートしている。
本NOCを元に、Air Asia Indiaは事業開始前の最終承認ステージへ向かう。
Air AsiaはAir Asia India（株式保有比率、Air Asiaマレーシア49%、TATAグループ30%、Telstraグループ21%）として、事業開始予定。
これまでAir Asiaはインドでは現在、チェナイ、バンガロール、ティルッチラーッパッリ、コチ、コルカタに就航している。

（レスポンス）9/30
http://response.jp/article/2013/09/30/207482.html (-> http://response.jp/article/2013/09/30/207482.html)

国際空港評議会、年間乗客数首位はアトランタ空港、羽田空港は4位

国際空港評議会は２９日までに、世界の各空港の航空乗客数や貨物の取扱量などに関する2012年の数値を対象とした年次報告書をまとめ、年間の乗客数では、アトランタ国際空港が計９５６５万９４８５人で12年連続首位だったと発表した。

2位は北京空港の８１９２万９３５９人、3位はロンドンのヒースロー空港の７００３万８８０４人、そして4位は羽田空港の６６７９万５１８８人、5位はシカゴ空港の６６６３万３５０３人だった。

同報告書では、航空便数や乗客数ではアジアや中東地域のシェア拡大が顕著になったと指摘。年間１５００万人を超える乗客数を持ち、伸び率が高い上位２５空港のうち２４空港はアジア、中東と南米地域に位置すると報告した。また、乗客数の上位５０空港のうち２９空港は北米と欧州諸国が占めた。

（CNN）9/29
http://www.cnn.co.jp/business/35037805.html (-> http://www.cnn.co.jp/business/35037805.html)

アメリカン航空、パイロット1500人増員を計画

（日経によると）
アメリカン航空は30日、パイロットを1500人増やす計画を明らかにした。米証券取引委員会（SEC）に資料を提出した。今秋からまず一時解雇したパイロットの再雇用を始め、今後5年間で1500人を新たに雇用する予定。すでに今年、新たに雇用した客室乗務員（1500人）、地上職員（1200人）に次ぐ人員増強措置だ。

同社の決算報告によると、8月単月の売上高は23億ドルと前年同月比7％増。月次で過去最高になった。業績向上に伴い、基幹的な職員のパイロットを増やす。米破産法第11条に基づいた会社更生中。会社更生を終えた後に同業のUAエアウェイズ・グループとの合併を計画している。

（日経）10/1
http://www.nikkei.com/article/DGXNASGN01003_R01C13A0000000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASGN01003_R01C13A0000000/)

キャセイパシフィック航空、羽田空港に上級者用ラウンジ、２０１４年６月稼働予定

キャセイパシフィック航空は３０日、羽田空港に上級クラス用のラウンジ開設も決定したことを明らかにした。2014年6月の稼働を予定しており、床面積は991平方メートル。場所は国際線出発サテライトの6階で、200席以上を設置してヌードルバーなども用意する。

同社は、各路線でサービスの拡充も継続しており、8月からは日本路線においてもプレミアムエコノミークラス投入しており、顧客から良い評価を得られているという。

（トラベルビジョン）9/30
http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59023 (-> http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59023)